

教育・研究などへの取組状況(令和6年度)

総合工学システム学科	系・コース
	プロダクトデザインコース
職階	氏名
講師	勇 地有理

項目	取組状況
教 育	<p><u>担当科目</u> プログラミング基礎(2D), 機械工作法(2D), 情報 3(3D), 加工工学Ⅱ(5M), 機械工作実習(2D), 機械システム実験Ⅰ(4M), 基礎研究(4M), 卒業研究(5M)</p> <p><u>担当科目の取組状況(工夫・改善した点)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Google Classroom 等を利用して, どこからでも授業や課題に取り組めるように努めた. ・演習の時間を増やすため, 授業動画を事前にオンデマンド配信し, 授業時間に演習問題に取り組む反転学習を実施し, 学生のアクティブラーニングを促進した. ・各授業でデータサイエンスや人工知能の基礎となるデータ解析の基礎を学べるように展開した. <p><u>特記すべき教育方法の実践例</u></p> <p>基本的には授業中に学ぶことを想定に置きつつ, 休んでしまった場合や, 予習・復習ができるように, 教材は Google Classroom で管理した. 一部の授業については反転授業を実施した.</p>
研 究	<p><u>紀要、解説、総説、学会・シンポジウム・セミナー等での発表等</u> 野田達夫, 勇地有理, 安藤太一, 『2023 年度 FARAD 活動報告』, 大阪府立大学高専研究紀要 第 58 巻, pp21-24 沢田周, 勇地有理, 『感性工学を用いたイケボの物理的特性と因子の関係』, 第 30 回 日本高専学会 年会講演会, ポスター発表 野田達夫, 勇地有理, 安藤太一, 『学生主体の公開講座実施をテーマとした授業の実線』, 第 30 回 日本高専学会 年会講演会, 口頭発表</p>

<記入上の注意>

教育: 該当年度の担当科目, 担当科目の取組状況(工夫・改善した点)などを記載。

研究: 該当年度の研究テーマ, 学外発表実績, 外部資金獲得状況, 共同研究などを記載

社会貢献: 該当年度の公開授業, 出前授業, 学協会活動などを記載

社会貢献	<p><u>公開講座・出前授業の取組状況</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前授業「3D プリンタ体験」 ・公開講座「カラフルいくらと香りの魔法」 ・公開講座「初めてでもできる！Scratch で学ぶプログラミング」 ・公開講座「レゴロボットプログラミングを体験しよう！」 ・公開講座「ロボットアームを動かしてみよう！」 ・高専祭「わくわくロボットアーム体験」 ・未来の博士ラボ「ロボット&プログラミングに挑戦しよう！」
------	---

<記入上の注意>

教育: 該当年度の担当科目, 担当科目の取組状況(工夫・改善した点)などを記載.

研究: 該当年度の研究テーマ, 学外発表実績, 外部資金獲得状況, 共同研究などを記載

社会貢献: 該当年度の公開授業, 出前授業, 学協会活動などを記載

教育・研究などへの取組状況(令和5年度)

総合工学システム学科	系・コース
	プロダクトデザインコース
職階	氏名
講師	勇 地有理

項目	取組状況
教 育	<p><u>担当科目</u></p> <p>プログラミング基礎(2D), 情報処理Ⅱ(3M), マイクロコンピュータ(3M), 加工工学Ⅱ(5M), 機械システム実習(3M), 機械システム実験Ⅰ(4M), 基礎研究(4M), 卒業研究(5M)</p> <p><u>担当科目の取組状況(工夫・改善した点)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Google Classroom 等を利用して, どこからでも授業や課題に取り組めるように努めた. ・演習の時間を増やすため, 授業動画を事前にオンデマンド配信し, 授業時間に演習問題に取り組む反転学習を実施し, 学生のアクティブラーニングを促進した. ・各授業でデータサイエンスや人工知能の基礎となるデータ解析の基礎を学べるように展開した. <p><u>特記すべき教育方法の実践例</u></p> <p>基本的には授業中に学ぶことを想定に置きつつ, 休んでしまった場合や, 予習・復習ができるように, 教材は Google Classroom で管理した. 一部の授業については反転授業を実施した.</p>
研 究	<p><u>紀要、解説、総説、学会・シンポジウム・セミナー等での発表等</u></p> <p>野田達夫, 勇地有理, 安藤太一, 『高専生によるオンライン公開講座の取り組み』, 第 29 回 日本高専学会 年会講演会, 口頭発表(2023)</p> <p>内田陽斗, 井上龍之介, 勇地有理, 『感性工学を利用したイケボの物理的特性解明』, 第 29 回 日本高専学会 年会講演会, ポスター発表(2023)</p> <p>野田達夫, 勇地有理, 安藤太一, 『2022 年度 FARAD 活動報告』, 大阪公立大学工業高等専門学校研究紀要 第 57 巻, pp33-34(2024)</p>

<記入上の注意>

教育: 該当年度の担当科目, 担当科目の取組状況(工夫・改善した点)などを記載.

研究: 該当年度の研究テーマ, 学外発表実績, 外部資金獲得状況, 共同研究などを記載

社会貢献: 該当年度の公開授業, 出前授業, 学協会活動などを記載

社会貢献	<p><u>公開講座・出前授業の取組状況</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開講座「ゼロから始める機械学習 ～Scratch で画像認識ゲーム作り～」 ・公開講座「わかる！3D プリンタ ～おしゃれメガネを作ってみよう～」 ・公開講座「入浴剤&せっけんをつくろう！」 ・公開講座「LEGO ロボットプログラミングを体験しよう！」 ・出前授業「AIによる画像認識体験」 ・産学連携推進会依頼による「CAM 演習」講義
------	---

<記入上の注意>

教育: 該当年度の担当科目, 担当科目の取組状況(工夫・改善した点)などを記載.

研究: 該当年度の研究テーマ, 学外発表実績, 外部資金獲得状況, 共同研究などを記載

社会貢献: 該当年度の公開授業, 出前授業, 学協会活動などを記載

教育・研究などへの取組状況(令和4年度)

総合工学システム学科	系・コース
	プロダクトデザインコース
職階	氏名
講師	勇 地有理

項目	取組状況
教 育	<p><u>担当科目</u> 情報1(1年), 情報処理Ⅱ(3M), マイクロコンピュータ(3M), 加工工学Ⅱ(5M), 機械システム実習(3M), 機械システム実験Ⅰ(4M), 基礎研究(4M), 卒業研究(5M)</p> <p><u>担当科目の取組状況(工夫・改善した点)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Google Classroom 等を利用して, どこからでも授業や課題に取り組めるように努めた. ・演習の時間を増やすため, 授業動画を事前にオンデマンド配信し, 授業時間に演習問題に取り組む反転学習を実施し, 学生のアクティブラーニングを促進した. ・各授業でデータサイエンスや人工知能の基礎となるデータ解析の基礎を学べるように展開した. <p><u>特記すべき教育方法の実践例</u> 基本的には授業中に学ぶことを想定に置きつつ, 休んでしまった場合や, 予習・復習ができるように, 教材は Google Classroom で管理した. 一部の授業については反転授業を実施した.</p>
研 究	<p><u>著書</u> 笹島 茂, 高橋 昌由, 上杉 裕子, 岡崎 久美子, 谷野 圭亮, 川上 太知, 勇 地有理, Brian Shaw, Aleksandra Zaparucha, 『CLIL in English CLIL で学ぶ工学と社会』, 南雲堂, 2023.</p> <p><u>学術論文執筆</u> <u>Chiari Isami</u>, Hiroki Yamamoto, Sachiko Sukigara (2022), “Visuo-haptic Cross-modal Recognition for Fabrics: Part2 Effect of Fabric Feature”, Journal of Textile Engineering. Vol. 68(2): 21-30</p>

<記入上の注意>

教育: 該当年度の担当科目, 担当科目の取組状況(工夫・改善した点)などを記載.

研究: 該当年度の研究テーマ, 学外発表実績, 外部資金獲得状況, 共同研究などを記載

社会貢献: 該当年度の公開授業, 出前授業, 学協会活動などを記載

	<p><u>紀要、解説、総説、学会・シンポジウム・セミナー等での発表等</u></p> <p><u>勇地有理</u>, 鋤柄佐千子, 『布の視触覚クロスモーダル再認における表面性状の影響』, 日本繊維機械学会 第 75 回年次大会, 口頭およびポスター発表(2022)</p> <p><u>Chiari Isami</u>, Sachiko Sukigara, “Analysis of distinguishability for fabric tactile feature related to the visuo-haptic cross modal information transfer” The 49th TEXTILE RESEARCH SYMPOSIUM, 口頭発表 (2022)</p> <p>北野健一, 伏見裕子, <u>勇地有理</u>, 東田卓, 山下良樹, 栗田佳代子, 『2021年度アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ開催報告』, 大阪府立大学高専研究紀要 第 56 巻, pp11-16(2023)</p>
<p>社会貢献</p>	<p><u>公開講座・出前授業の取組状況</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開講座「ゼロから始める機械学習－Scratch で画像認識ゲーム作り－」 ・オンライン公開講座「水と油が混ざる?! マヨネーズ作り」

<記入上の注意>

教育: 該当年度の担当科目, 担当科目の取組状況(工夫・改善した点)などを記載.

研究: 該当年度の研究テーマ, 学外発表実績, 外部資金獲得状況, 共同研究などを記載

社会貢献: 該当年度の公開授業, 出前授業, 学協会活動などを記載